

新聞の中の外来語

32期生

I テーマ設定の理由

日常生活に必要なものといえば、まずテレビ・ラジオ・新聞とくる。新聞を題材に選んだのは、生活必需品であるということと、通学中にいやというほど新聞を見ているからである。

新聞という題材は決まったが、新聞について何をやるのかまた考えた。その結果が、*新聞の中の外来語、である。ほんやりと新聞を見ているとすぐ出てくる外来語。一見しただけでも、「サミット」「ミス」「スポット」他々……が出てくる。この外来語の語源国やどんな言葉が多いかなどに興味をもち、自由研究を始めることにした。

II 研究方法

(1) 朝日新聞の一週間分(7月10日～7月16日)をとり上げる。

・その中の項目別に外来語をノートに書き出していく。(各面ごとに)

- ①どんな言葉が多いか。(ベスト10)
- ②語源国は主にどこか。
- ③項目の中でどの項目が一番外来語が多いか。(各面の一週間分のトータル)
- ④ベスト10だけつづりを調べる。
- ⑤全体でいえること。

※広告・株式・アルバイト・テレビの各面は除く。

(2) 現在の新聞(7月10日)のトップ面と、昔の新聞のトップ面との比較。

- ・昭和1年・10年・15年・20年・25年・30年・40年・54年の各新聞のトップ面に出てくる外来語を書き出す。
- ①各年の特色。
- ②現在との相違。

III 研究結果

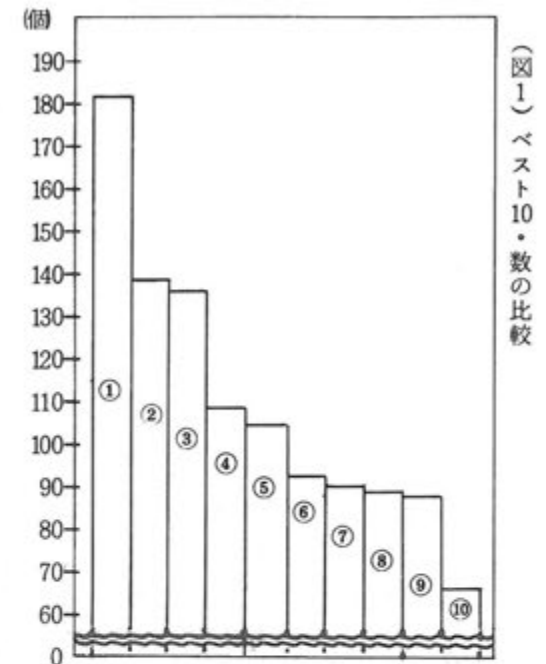
(1)①どんな言葉が多いか。

7月10日～7月16日の新聞からとり出した外来語を、調べやすくするためにアイウエオ順に並びかえた。そしてどんな言葉が多いか調べた。選り出されたベスト10は次のとおりである。(1426個中で、個数の横の数は、図1のグラフの番号である。)

- 1位 キロ……………183個-①
- 2位 エネルギー…138個-②
- 3位 メートル…135個-③
- 4位 チーム…107個-④
- 5位 リーグ…105個-⑤
- 6位 トン……………93個-⑥
- ” グループ…93個-⑥
- 7位 サミット…91個-⑦
- ” ドル……………91個-⑦
- 8位 トンネル…89個-⑧
- 9位 センチ…88個-⑨
- 10位 インフレ…66個-⑩

(気付いたこと)

キロやメートルなどの単位は当然多かった。また、エネルギーやサミット・インフレなどの社会的事項に関する言葉が多いことが目についた。このことから外来語と社会とは関係があるといえる。

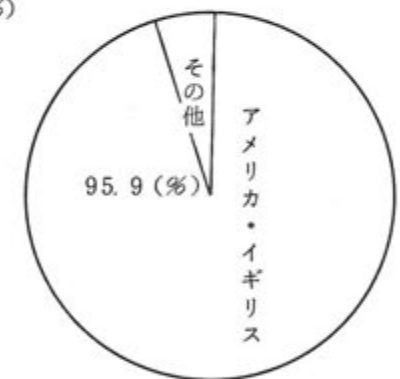


②語源国は主にどこか。

整理し終った外来語(1426個)を1つずつ語源国を調べた。

1426個中

- ・アメリカ・イギリス…1369個-95.9(%)
- ・フランス……………20個-1.4
- ・ドイツ……………16個-1.12
- ・オランダ・イタリア…各4個-0.28
- ・ { ポルトガル・中国
- ・ { ラテン……………各3個-0.21
- ・ { スペイン・ロシア・
- ・ { フィリピン・フィン
- ・ { ランド……………各1個-0.07



(気付いたこと)

圧倒的にアメリカ・イギリスが多かった。これは、アメリカが日本との最大貿易国だからと思う。

③項目の中でどの項目が一番外来語が多いか。

各面の一週間分を合計する。(図3のグラフの中の番号は、何面かを表す。)

1面	340個	12面	269個
2面	総合 203	13面	276
3面	総合 357	15面	401
4面	解説 312	17面	※スポ 509
5面	社説 358	20面	大阪 441
7面	国際 210	21面	大阪 428
8面	経済 560	22面	社会 373
9面	経済 441	23面	社会 470

※スポ→スポーツ

〔気付いたこと〕

8面の経済面が一番多かった。9面も割合多いので、経済面は外来語が多いといえる。やはり経済というものは外来語と深い関係におかれていると思う。

④ベスト10だけつづりを調べる。

・キロ	kilo	・サミット	summit
・エネルギー	Energie	・ドル	dollar
・メートル	metre	・トンネル	tunnel
・リーグ	league	・センチ	centi (metre)
・トン	ton	・インフレ	inflation
・グループ	group		

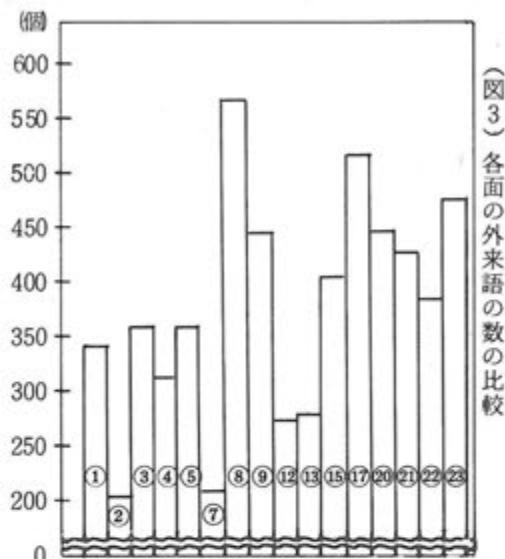
⑤全体でいえること。

外来語は、世の中の様子をうまく反映していると思った。ベスト10でも、エネルギーやサミット・インフレなど、今の日本に関係の深いものばかりだからである。外来語と世の中とは密接な関係に置かれている。

語源国でも、今、日本との関係が深い「アメリカ、からはいつてきた言葉が、95%以上をしめた。貿易・経済などが深い関係だと外来語もそれにつれてやってくる。外来語は貿易とも密接な関係にある。

〔2〕①各年の特色。(年号の横の数字は何種類の外来語が出てきたかを表す)

- ・昭和1年(3)あまりははっきりした特色がない。
- ・昭和10年(4)・15年(5)だんだん戦争の時代に入っていくが影響はまったくなかった。フランス語が一つあった。



- ・昭和20年(4)終戦前で、「敵国の言葉を使うなーっ!!」と言われていた頃なのに、全然影響を受けていない。ドイツ語が一つあった。
- ・昭和25年(9)終戦から5年たったせいか、外来語の数も増えた。(特に英語)
- ・昭和30年(9)フランス語が一つあった。そのほか特色らしきものなし。
- ・昭和40年(12)この年、ベトナム戦争の最中だったので、ナバームやロケット・ミサイルなどが多く出ていた。
- ・昭和54年(19)従来よりやはり多くなっている。

②現在との比較

昔はやはり現在のよりも少なかった。これは、貿易が今ほど発展していなかったからだろう。また、外来語の数では、戦後の方が多かった。これはたぶん、戦後になって、英語が義務教育の科目となり、また、一般化したからだと思う。

(注. この調査はあまり豊富なデータを使えなかった。それで、昔の新聞のことに
ついてくわしいことはいえない。)

IV 結 論

今までのことをまとめると

- (1)出てくる回数が多いのは、世の中に関係あるもの、生活に関係するもの、単位であった。
- (2)語源国は圧倒的に、アメリカ・イギリスであった。
- (3)項目別では経済面が多かった。
- (4)昔の新聞では、今に比べて外来語の数が少なく、また、戦後の方が多かった。

V 総 括

やってみてよかった。これをやったおかげで、少しは外来語の知識がついたと思う。でも、やり方が下手だったために、出てきた外来語をまとめるのにすごく時間がかかった。そのおかげで、もう少しするはずだったことも出来なくなった。例えば、「なぜ戦争中に敵国の言葉を使ったのか」「昔の新聞のトップ面は調査したけれどその他の面はどうか」など。来年も迷わずこれをやりたいと思う。

●参考文献

「朝日新聞 100年の重要紙面 1879～1979」	朝日新聞社
「常用外来語新辞典」	梧桐書院
「新明解国語辞典」	三省堂
「岩波英和辞典」	岩波書店